

【2022年度 関東ブロック会議報告書】

幹事館名	多摩六都科学館
開催日時	2023年1月20日（金）15時～17時
開催方法 参加人数	オンライン開催 21組織（関東ブロック：19館、関東ブロック以外：1館、および連携協事務局）
<p>報告内容：</p> <p>【概要】</p> <p>年末に新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあったため、昨年引き続きオンラインでの開催とした。関東ブロックほぼ全域からの参加があり、ご参加いた毛利会長からは「それぞれの地域を大事にした運営をしている各館から、一番のサービスは何ができるのかを聞くことができ、それを連携協の活動に活かせるようにしたい」とのご挨拶をいただいた。</p> <p>内容は各館より最近の取り組みや利用者の状況の発表とした。入館者数はコロナ禍前の6～8割程度まで回復、特に学校利用や修学旅行等が戻ってきているという施設が多かった。一方で、学校からのアウトリーチ需要が増えている、オンラインプログラムに注力してむしろ施設の認知度が上がった等、コロナ禍による新しい動きも報告された。</p> <p>利用者は回復傾向にあるとはいえ、単純に以前の利用者や利用形態が戻るとは想定せず、平日の大人向けの科学教室やプラネタリウムを開催し、新たな利用者層拡大の努力を始めた施設も複数あった。</p> <p>活動内容に加え、人手が足りない中での感染症対策やオンラインプログラムの実施などコロナ禍により仕事量が増えており、さらにスタッフの感染が重なって厳しい状況に置かれたケースなど、労働環境に関する悩みも多くの施設から報告された。</p> <p>【開催報告】</p> <p>1. 挨拶</p> <p style="padding-left: 20px;">多摩六都科学館 高柳雄一館長 全国科学館連携協議会 毛利衛会長</p> <p>2. 参加館より、コロナ禍での最近の取り組みや状況を紹介（1館3分程度で全館が発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくばエキスポセンター 新規利用者獲得のために大人向けの超ひも理論についての講座などを行っているが苦戦している。利用者はリピーターが多い。 ・千葉市科学館 令和3年10月にリニューアルした展示室について紹介。来館者は2/3くらいまで回復し、学校団体の利用はほぼ戻ってきた。 ・越谷市科学技術体験センターミラクル 来館者が戻ってきている。インタラクティブ体験装置（プロジェクションマッピング）を新設。多くの人に楽しまれている。 ・ぐんまこどもの国児童会館 昨年度できなかったイベントが可能になり、大学生や高校生とのコラボ企画もコロナ禍以前と同様にできた。来館者は未就学児が増えている。 ・原子力科学館 5年間（5期）かけてリニューアルを実施。今年度3期目を迎えた。 ・情報通信研究機構（NICT） 8月以降、コロナ禍前の来館者数に戻っている。修学旅行や校外学習の学生むけの研究室ツアーを行っている。リニューアルは情勢を見て行う予定。 	

- ・埼玉県立川の博物館
 2019年の台風19号の被災から施設は復旧。学校団体の利用はほぼ戻っている。学校へのアウトリーチの要望が多く、スタッフの手が回らない状態。
- ・相模原市博物館
 プラネタリウムの定員は元にもどった。触れる展示も復活。多様な主体との連携事業を進め、マンホールカードの発行やゲーム・アイドルマスターとのコラボによって新規来館者が獲得できた。
- ・TEPIA 先端技術館
 リニューアルのため2022年3月まで休館。アウトリーチ活動をオンライン化、ハイブリッド型でも実施。Web上のデジタルTEPIAも運用開始した。
- ・栃木県子ども総合科学館
 来館者は7割まで復活。プラネタリウムは半分の定員で実施。令和5~6年度にリニューアル予定で、その間はアウトリーチ事業に注力する。
- ・日本科学未来館
 来館者の回復スピードが遅く、学校団体は増えたが旅行者はまだ。特別展の来場者も従来に比べ少ない。常設展示を一部リニューアル。
- ・三菱みなとみらい技術館
 一部リニューアルして三菱重工が取り組んでいるSDGsに関連した技術を展示。接触展示は避けた。学校からの企業訪問のニーズが多い。
- ・コニカミノルタサイエンスドーム（八王子子ども科学館）
 感染防止のため、生演奏で行っていた星空コンサートはコロナ禍になってからCDコンサートとして実施。来年度には復活させたい。
- ・パナソニックセンター東京 AkeruE
 STEAM教育、ティンカリングなどクリエイティブな体験を意識したプログラムを展開。オンラインプログラムは遠方に住む人からの需要が高い。
- ・向井千秋記念子ども科学館
 来館者は6~7割に復活。プラネタリウムの定員や入館の制限をなくした。ムーンウォーカーは体験者数を従来の半分に抑えた運用だが人気が高い。
- ・山梨県立科学館
 立地の都合、車でないと来館しづらいので、それを生かした親子をターゲットにした内容を行っている。リモートの実験教室は、子どもたちは順応している。
- ・郵政博物館
 ソラマチ内にあるため、感染症対策も施設に準じている。スカイツリー見学者が増えてきているので、来年度から利用が増えることを期待。「飛び猫」の写真展で大人の利用が増えた。
- ・港区立みなと科学館
 2020年コロナ禍の最中にオープン、前年度169%の来館者を迎えている。夜間のプラネタリウムの観覧者数が伸び悩んでおり、大人をどう呼び込むかが課題。
- ・札幌市青少年科学館
 大規模リニューアル中。市内の生涯学習センターを使ってアウトリーチ活動を行っている。
- ・多摩六都科学館
 来館者は7~8割まで戻った。ボランティアの活動は休止中。体験展示は一部を残しほぼ復活させた。プラネタリウムは平日に大人向けのプログラムを実施し、これは年間のスケジュールを広報したことで利用が増えている。乳児とその家族を対象とした赤ちゃんプラネタリウムは平日でも満席になるほど人気が高いが、感染リスクを考えまだ復活させていない。今後の平日の利用者数増や利用者層の幅を広げる取り組みに注力したい。

3. 次期幹事館について…引き受け館決まらず



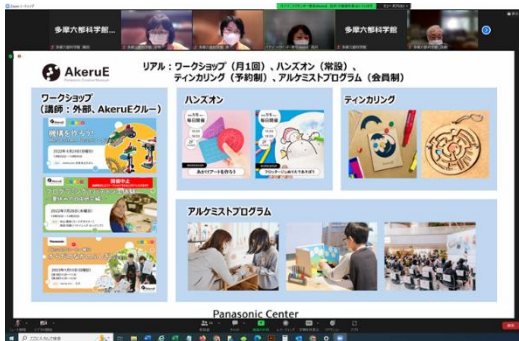
毛利会長よりご挨拶



千葉市科学館のリニューアル展示



相模原市博物館のコラボ企画紹介



パナソニックセンター東京・
AkeruE のプログラム例



実施状況

